

研究 主題	資料の情報から社会的事象の特色や意味を深く捉え表現させる授業づくり －社会的な見方・考え方を働かせる問いや資料活用方法の工夫を通して－
----------	--

第2学年社会科学習指導案

指導月日 令和6年10月22日
所属校名 塩竈市立玉川中学校
氏名 齋藤 直義

1 単元名「日本の諸地域 中部地方」（東京書籍 新しい社会地理）

2 単元の目標

- (1) 中部地方について、地域的特色や地域の課題を理解することができる。
〔知識及び技能〕 C (3) ア (ア)
- (2) 中部地方において、産業を中核とした考察を基に、地域の広がりや地域内の結び付き、人々の対応などに着目して、地域的特色の成立条件を多面的・多角的に考察し、表現することができる。
〔思考力、判断力、表現力等〕 C (3) イ (ア)
- (3) 中部地方について関心を高め、よりよい社会の実現を視野に、中部地方で見られる課題を主体的に追究、解決しようとする。
「学びに向かう力、人間性等」

3 単元観

本単元は、中学校学習指導要領（平成29年告示）の「社会〔地理的分野〕C 日本の様々な地域(3) 日本の諸地域」を基に設定している。

日本の7地方の中でも、中部地方は工業生産額が最も高く、農業生産額も高い地方である。その背景には、地形や気候が異なる東海、中央高地、北陸という3つの地域で成り立ち、各地域に個性豊かな産業が発展していることが挙げられる。

産業が形成される主な条件には、自然環境、歴史、場所のつながりがあると考えられる。このような条件が相互に作用して、地域特有の産業が発展しているといえる。本単元は、産業が形成される条件を考察し、表現することで、中部地方の特色を理解するものである。

4 生徒の実態 [第2学年1組 35名]

資料から情報を読み取る力、複数の情報を関連付けながら考えて説明する力を把握するため、折れ線グラフと雨温図を読み取るレディネステストを実施した（令和6年9月6日実施：n=32）。その結果、長野県が生産するレタスの量は夏に多いという、折れ線グラフの傾向を読み取ることでできた生徒は91%だった。しかし、雨温図と関連付けて、夏でも涼しい気候が関係しているといったように考えて説明できた生徒は91%のうち22%であった。

〈レディネステストの内容と結果〉

折れ線グラフと雨温図を読み取る問題		
「東京都中央卸売市場に入荷するレタスの量」「中部地方の主な都市の雨温図」		
内容	資料から読み取れたことや考えたことについて100字以内で書く。	
ねらい	資料から情報を読み取る力、複数の情報を関連付けながら考えて説明する力を測る。	
	評価基準と生徒の解答例	割合（人数）
1	◆グラフの傾向を読み取り、雨温図と関連付けながら考えて説明できる。 例) 長野県が出荷するレタスの量は、他県の出荷が少ない夏に増えている。 夏に出荷量が多い理由は、夏でも涼しい気温が関係していると思う。	22% (7/32)

2	◆グラフの傾向を読み取ることはできるが、雨温図と関連付けながら考えて説明できない。	69% (22/32)
3	◆グラフの傾向を読み取ることができず、雨温図と関連付けながら考えて説明できない。	9% (3/32)

5 指導観

中部地方の学習は、各地域の自然環境や産業の特色などを網羅的・並列的に取り上げると、学習課題が知識の習得に偏ってしまう可能性が高い内容である。そこで、「なぜ生産額1位の県が中部地方に集中しているのか」という単元を貫く課題を設定し、地域特有の産業が発展している条件を考察し、表現させながら、中部地方の特色を理解させたいと考える。

第1時では、中部地方に生産額1位の県が集中しているのはなぜか予想させることで、学習に対する見通しを持たせる。また、中部地方の自然環境について概観させ、東海、中央高地、北陸という地形や気候が異なる3つの地域で成り立つという知識を習得させる。第2時から、東海、中央高地、北陸の地域ごとに課題を設定し、各地域ごとに特色ある産業が形成される条件を、資料を基に考察し、表現させる。産業が形成される条件を考察させる際には、自然環境、歴史、場所のつながりという視点を与えることで、多面的・多角的に考察させていきたい。レディネステストの結果から、資料から情報を読み取ることはできるが、複数の情報を関連付けながら考えて説明することを苦手とする生徒が半数以上見られる。そこで、複数の情報を関連付けながら、中部地方の特色を考えて説明させる活動を重視したい。その際、調べたことや考えたことを交流させる場面を設定し、考えを深めさせながら自分の言葉で表現できる力を身に付けさせたい。

6 研究主題との関連

社会科の課題は、「資料から読み取った情報を基にして社会的事象の特色や意味などについて比較したり関連付けたり多面的・多角的に考察したりして表現する力の育成が不十分である」と指摘されている（中央教育審議会、2016）。そこで、「資料を読み取る力の育成」「多面的・多角的に考察し表現する力の育成」を図る指導が求められているといえる。

そこで本研究では、「資料の情報を比較したり関連付けたりしたことを多面的・多角的に考察したりする力」を「深く捉える力」と定義した。また、「表現する力」を「思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力」と定義し、本研究では「資料の情報から社会的事象の特色や意味を深く捉え表現する力」を高めることを目的とするものとした。

社会的事象の特色や意味を深く捉え表現する力を高めるためには、社会的な見方・考え方を働かせることが重要である。そこで、「社会的な見方・考え方を働かせる問いの工夫」、「社会的な見方・考え方を働かせる資料活用方法の工夫」の2点について授業改善に取り組み、社会的事象の特色や意味を深く捉え表現する力の高まりが見られるか検証を行う。

(1) 社会的な見方・考え方を働かせる問い（学習課題や発問）の工夫

社会的事象の特色や意味を深く捉えさせるためには、問い（学習課題や発問）が重要であると考えられる。学習指導要領には社会的事象の地理的な見方（視点）の例として「位置や分布に関わる視点」「場所に関わる視点」「人間と自然の相互依存関係に関わる視点」「空間的相互依存作用に関わる視点」「地域に関わる視点」が挙げられている。それらの見方と「地理的事象がなぜそこでそのように見られるのか」「なぜそのように分布したり移り変わったりするのか」「私たちは地域の将来をどのように考え行動すべきか」といった考え方（方法）を働かせるような問いが重要である。そこで、以下の工夫を行う。

① 学習課題の工夫

複数の資料を基に、社会的な見方・考え方を働かせ、多面的・多角的な考察をねらいとした学習課題を設定する。また、複数の資料を関連付けながら、社会的事象の特色や意味を考えて説明・表現する活動をねらいとした学習課題を設定する。

② 発問の工夫

「社会的事象の因果関係を問う」「ある社会的事象の事例から一般化を図る」「複数の側面から考える多面化・視点と視野を変えて考える多角化を促す」発問を行う。また、生徒同士の思考をつなげたり、対話を促したりする「問い返し」、考察した理由を掘り下げる「切り返し」、否定的に働き掛けて自分の考えに確信を持たせたり新たな視点に気付かせたりする「ゆさぶり」といった補助発問によって生徒の考えを深める。

(2) 社会的な見方・考え方を働かせる資料活用方法の工夫

① 資料内容の工夫

学習の動機付けとして、「知りたい」「調べてみたい」という意欲を喚起するような資料を提示する。また、社会的な見方・考え方を働かせて、考えを説明したり、議論したりする学習の展開をねらいとした資料を提示する。

② 資料の提示方法の工夫

I C Tを活用し、文字のみではなくグラフや図、写真や動画資料など、学習の目的に合わせた多様な資料を提示する。また、複数の資料を比較させたり関連付けたりさせる場合においても、操作の容易性や即時性を生かしてI C Tを活用した資料の提示を行う。

7 単元の指導と評価の計画

(1) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①中部地方について、地域的特色や地域の課題を理解している。 (C(3)ア(ア))	①中部地方において、産業を中核とした考察を基に、地域の広がりや地域内の結び付き、人々の対応などに着目して、地域的特色の成立条件を多面的・多角的に考察し、表現している。 (C(3)イ(ア))	①中部地方について関心を高め、よりよい社会の実現を視野に、中部地方で見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。

(2) 単元の全体計画（6時間扱 本時4／6）

(○…「評定に用いる評価」、●…「学習改善につなげる評価」)

	学習活動	評価の観点			評価規準等
		知	思	態	
4時間扱	【単元を貫く課題】なぜ生産額1位の県が中部地方に集中しているのか。				
	第1時 課題：中部地方に生産額1位の県が集中しているのはなぜか予想しよう。				
	<ul style="list-style-type: none"> 統計資料を活用して中部地方の主な農・水産物や工業製品について生産額や割合を調べ、単元を貫く課題に対する予想を記入する。 中部地方の自然環境について特色を白地図にまとめる。 	●		●	<ul style="list-style-type: none"> ●中部地方の学習に関心をもって取り組もうとしている。 ●地形、気温、降水量に着目し、中部地方の自然環境に関する特色を理解している。
第2時 課題：北陸で、ものづくりが盛んな理由は何だろうか。					

	<ul style="list-style-type: none"> 北陸の特色ある産業が形成される理由について、資料を基に考察し記述する。 		●		<ul style="list-style-type: none"> 冬の豪雪（自然環境）、江戸時代から続く伝統産業（歴史）の視点から、北陸の産業が形成される理由を考察し記述している。
第3時 課題：果樹栽培や高原野菜の栽培は、なぜ中央高地で盛んなのか。					
	<ul style="list-style-type: none"> 中央高地の特色ある産業が形成される理由について、資料を基に考察し記述する。 		●		<ul style="list-style-type: none"> 夏でも冷涼な気候（自然環境）、交通網による結び付きや東京や名古屋大都市圏の間に位置する場所（場所のつながり）の視点から、中央高地の産業が形成される理由を考察し記述している。
第4時 課題：東海では、なぜピアノやプラモデルの生産が盛んになったのだろうか。（本時）					
	<ul style="list-style-type: none"> 東海の特徴ある産業が形成される理由について、資料を基に考察し記述する。 		●		<ul style="list-style-type: none"> 豊富な資源（自然環境）、伝統産業からの発展（歴史）、中央高地の木材の活用（場所のつながり）から、東海の産業が形成される理由を考察し記述している。
単元のまとめ（2時間扱）	【単元のまとめの課題】なぜ生産額1位の県が中部地方に集中しているのか。自然環境、歴史、場所のつながりの視点から自分の考えをまとめよう。				
	<ul style="list-style-type: none"> 中部地方で生産が盛んな産業を1つ選択し、産業が形成される視点を基に、盛んな理由を調べる。 なぜ生産額1位の県が中部地方に集中しているのか、学習してきた内容を基に、自分の考えをまとめる。 		○		<ul style="list-style-type: none"> ○中部地方について、見通しをもって学習に取り組もうとし、学習を振り返りながら課題を追究しようとしている。 ○中部地方で産業が発展している理由を、自然環境、歴史、場所のつながりの視点や、社会の変化への対応という視点から記述している。

8 本時の計画

(1) 目標

自然環境、歴史、場所のつながりの視点を1つ用いて、産業が発展する理由を考察し記述することができる。〔思考力、判断力、表現力等〕

(2) 本時の指導に当たって

導入では、中部地方の地図を活用して、各県の位置や地域区分（北陸・中央高地・東海）を復習する時間を設けた。多くの生徒が分かる内容、出来る活動を設定し、生徒が安心感を持って学習課題に取り組めるように留意した。

学習課題をつかむ場面では、静岡県のピアノ生産のシェアが100%であることや、静岡市のプラモデル生産のシェアが約90%であることを示す。また、静岡市に設置されているプラモデルのオブジェの写真を提示し、生徒が疑問や興味を持って活動に取り組めるようにした。

情報を集める場面では、3～4人でグループを作らせ、ピアノまたはプラモデルのどちらを調べか選択させる。そして、地図帳や動画資料を基に、ピアノやプラモデルの生産が盛んになった理由を調べさせていく。動画資料は、ピアノとプラモデル各3分程度で、自然豊かで木材を活用した産業が盛んになったことや、伝統的な職人の技術を活用したという内容である。資料は、オンライン授業支援ソフトで配布し、個人で視聴できるようにした。調べた内容はペア、班の順番で共有させて整理させる。

	<p>◆明治時代に木材の工場がたくさんあった。 →□それはなぜですか。</p> <p>◆近くに木材が豊富な場所があったから。 →□どこの木材を活用したのですか。</p> <p>◆東海に近い中央高地の木材を活用した。 →□中央高地の木材を、なぜ距離が離れた東海で活用できたのですか。</p> <p>◆天竜川の水運を使って、中央高地から東海まで木材を運んでいたから。 〈プラモデル〉</p> <p>◆戦前に木製模型づくりが盛んだった。 →□それはなぜですか。</p> <p>◆木を加工する技術が発達していたから。 →□なぜプラモデル産業に変化したのですか。</p> <p>◆プラスチックが輸入されたから。 ◆プラスチックの方が強度が高いから。</p> <p>□2つの産業の共通点は何ですか。</p> <p>◆中央高地の木材を活用した。 ◆伝統的な職人の技術を活かした。</p> <p>□共通点として他に考えられたことは何ですか。</p> <p>◆江戸時代、徳川家康が城を作らせるために職人を静岡県に集めた。 ◆海に面しているため、材料の輸入や製品の輸出がしやすい。</p>	<p>◎生徒の発言を、自然環境、歴史、場所のつながりの3つの視点で価値付けする。</p> <p>◎生徒の発言に「問い返し」の補助発問をすることで、生徒同士の思考をつなげたり、対話を促したりして、生徒の考えを深める。</p> <p>◎考察した理由を掘り下げる「切り返し」の補助発問をすることで、中央高地の豊富な木材を活用するため、天竜川の水運を利用したという場所のつながりに着目させたい。</p> <p>◎社会の変化（材料の変化）という、新たな視点を提示することで、多面的・多角的に考えられるようにする。</p> <p>◎自然環境を活用し、材料に合わせて職人の技術を活かすことで、東海の産業が盛んになったことに着目させたい。</p> <p>◎自然環境、歴史、場所のつながりの3つの視点や、既習事項を用いて考えていた生徒を意図的に指名して発表させる。</p>
<p>終末10分</p>	<p>5 本時のまとめをする。 ・課題について、3つの視点を基にまとめを書く。</p>	<p>個人 ●自然環境、歴史、場所のつながりの視点を1つ用いて、産業が発展する理由を考察し表現することができる。【思考・判断・表現】（ワークシート）</p>

(4) 本時の評価

評価の観点	具体的評価規準（B）	十分満足できる（A）	努力を要する生徒への手立て（C）
思考・判断・表現	自然環境、歴史、場所のつながりの視点を1つ用いて、産業が発展する理由を考察し記述している。	自然環境、歴史、場所のつながりの視点を複数用いて、既習事項と関連させながら、産業が発展する理由を多面的・多角的に考察し記述している。	産業が発展する理由について、自然環境、歴史、場所のつながりの視点を示しながら、考察できるように促す。

(5) 準備物

- ① 教師：教科書、地図帳、テレビ、PC、タブレット、ワークシート、中部地方の地図
- ② 生徒：教科書、地図帳、タブレット、イヤホン

(6) 板書計画

